

2018年11月18日（日）午後3時～5時40分頃（開場 午後2時45分） KARTH 勉強会

「阪神・淡路大震災の悲劇を二度と繰り返さないために我々は何をすべきか」

今年6月18日大阪府北部の地震、7月豪雨、9月の台風21号、9月6日北海道胆振東部地震（震度7）等、様々な災害がおきていますが、日本列島は地殻・地形的にみても様々な自然災害に頻繁に見舞われる宿命にあると言われていました。

気象庁のHPには次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきていることが公表されています。

また、京都市防災マップ地震編には、次の南海・東南海地震発生は2040年頃と予測され、同地震発生の約60年前から約10年後までが内陸の活断層による地震が起こりやすい活動期になると記載されています。

そのような中で、当会は「阪神・淡路大震災の悲劇を二度と繰り返さないために我々建築専門家は何をすべきかの答えを見つける」ために1998年11月に発足しました。

今回の勉強会では、これまで当会が取り組んできた研究・活動から得られたその答えのヒントを整理すると共に、今後予測される様々な自然災害を軽減するために、我々は何ができるか、何をすべきかを真摯に考え実践していくためのヒントを専門家の方々から学びます。

お気軽にご参加下さい。

1. 「火災が拡がる前に鎮圧する——地域防災のマイクロ化」

長谷見雄二（早稲田大学教授）

戦後高度成長期までの都市大火の頻発を克服した原動力は都市不燃化と消防力の常備化といわれているが、高齢化や新築→ストック活用の動向とともに、この戦略の限界も顕在化してきた。一方で、火災感知伝達、消防設備等の性能や操作性は、ポテンシャルまで考えれば著しく向上し、コストも低下している。火災を早い段階で覚知できれば操作の容易な消火設備で鎮圧でき、その間の燃焼・煙拡大等の抑制法のメニューも拡がる。歴史的市街地、山間集落、離島などを想定して研究を進めている地域防災のマイクロ化の取り組みをご紹介したい。

2. 「事前復興と地区防災計画」

室崎 益輝（神戸大学名誉教授）

京都市内で震度6ないし7の直下型地震が起きると、古い街並みは火の海になりかねない。多数の市民の命も奪われてしまう。

その悲劇を避けるためには、事前に壊れないまちづくり、燃えにくいまちづくりに、取り組むしか道はない。その事前の減災あるいは復興にみんなで取り組む地区防災計画を提唱する。

休憩

3. 意見交換

★勉強会終了後、懇親会（1時間程度）

- 会 場：西陣 蕨^{ヒコバエ}ノ家 京都市上京区^{カミタチウリドオリ}上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地、
(築約 170 年、江戸後期の町家を 2000 年に木造伝統構法で防火・耐震改修)
- 参加費：勉強会 1000 円 (会員 800 円、学生無料)、懇親会 1000 円 (学生無料)
- 参加方法：お名前、所属、懇親会の参加の有無、電話・FAX 番号、メールアドレスを明記の上、
11 月 12 日 (月) までにメールまたは FAX でお申込み下さい。
- 参加申込み・問合せ先：NPO 法人 関西木造住文化研究会 (略称 KARTH : カース)
TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725、E-mail info@karth.sakura.ne.jp
<http://karth.org/>、住所は会場と同じ

●交通アクセス

最寄バス停「今出川浄福寺」、「千本今出川」、「千本上立売」より徒歩約 5 分、目印:角地、お地藏さんのある家

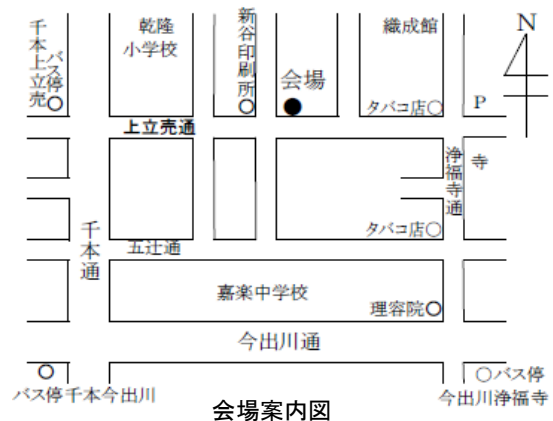
JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)

①地下鉄利用の場合

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口、烏丸今出川交差点の今出川通東側バス停から西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車

②市バス利用の場合

JR 京都駅北側(烏丸口)バス乗り場 A3 の 206 番に乗車、バス停「千本上立売」下車又は、B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車



KARTH とは

★当会は、1998 年 11 月に発足以降、「地域固有の木造伝統文化を活かした安心して暮らし続けられる住まい・まちづくりの実現」のための総合的・工学的な研究開発・提案と研究成果の啓発活動に取り組んでいます (モデル:京町家)。各地の様々な分野の研究者、木造伝統構法の技能者・職方、建築実務者、市民の方々等の参画による総合的知見を活かした協働研究方式をとっています。

各自自立しながらも所属を超えて対等な立場で自由に参画でき、必要に応じて連携することにより社会に向けてより大きな力を発揮できる場づくりを目指しています。

主な研究・活動の概要⇒<http://karth.org/>

主な研究例



勉強会会場
江戸期の町家の伝統構法による防火・耐震改修 (1999-2000)



伝統的軸組構法の木造土壁せん断耐力試験 (2000、2003)



伝統的軸組構法の木造土壁の火災安全性実験 (2000、2002)



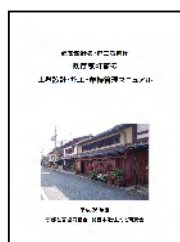
既存京町家の振動実験 (1999-2003)



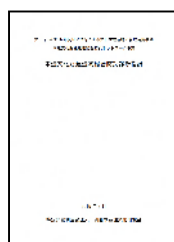
住まい手向け既存伝統木造住宅防火・耐震改修手引き (2006-2007)



建築設計者・施工者向け既存伝統木造住宅防火改修設計・施工マニュアル、技術解説書 (2007-2010)



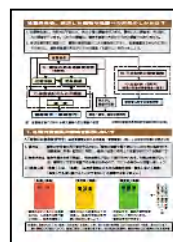
(京都左官協同組合との連携) 建築実務者向け既存京町家の土壁設計・施工・維持管理マニュアル (2014)



H26 年度文化庁事業木造文化財建造物総合防災診断指針 (震災、火災、水害・土石流災害、雪害、樹木災害、2014)



新潟被災住宅修復調査報告書 (2007~2009)



市民向け「地震発生後の被災建物の対処の仕方」チラシ (2008-2009)



「浸水被害を受けた竹小舞下地土壁の扱いについて」チラシ (2018)